君無者、奈何身裝飾、匣有黃楊之小梳毛、將取跡毛不念、

〔空穗物語あて宮〕かくてあて宮、東宮にまいり給事、十月五日とさだまりぬ、きこえ給人々まどひ給ふことかぎりなし、〇略中かくて其時になりて、御車かずのごとし、御供の人ゑなゑなゑ〳〵さうぞくきて、日のくるゝをまち給ほどに、なかたゞの中將の御もとより、蒔繪のをきぐちのはこよつに、ぢんのさしぐしよりはじめて、よろづにしつりぐしの御くしあけの御てうど、よき御すゑひたひ、さいし、もとゆひ、ゑりぐしよりはじめてあり、

〔榮花物語八初花〕ゑろかねのはこのふたに、鏡をいれ、沈のくし、白かねのかうがいをいれて、〇略下

〔空穗物語樓の上之下〕殿は人の御ゑだいにの給へと、さべき事なれど、人は心こそはづかしけれとて給つ、かれらのすきばこ、ひとつにはからあや五疋、いまひとつには、ぢむしたんのくしあるを、たいの御方に奉らせ給とて、かんの殿、

思ひやる心をつ[げのくしならばおぼつかなくはなげかざらまし、とて奉り給へれば、御返、

そのかみにふりにし物をあらたむるこれこそつげのをぐしとはみれ、をばのと思給へらるるときこえ給へり、

〔嬉遊笑覽一下容儀〕或諸侯の藏物に、紫檀にて作れる古き櫛二ッ有、一ッは形圓く、傍に短き柄ありて自在に動く、今の毛筋通しなどの用をなすもの歟、一ッはみねを鳥の形に彫たり、

〔俗つれ〳〵四〕御所染の袖色ふかし

ゑめつけ島田髮、前も後も長み同じことにして、中ほどに平鬢を懸け、插櫛白檀の木地に、珊瑚珠の切入、梅の古木に氣を盡し、

〔一話一言二〕平賀鳩溪

平賀源内、名は國倫、字は士彝、鳩溪と號す、狂名は風來山人、又天竺浪人と號す、讃州志度浦の人也、